

★センターからのお知らせ★

◆横浜市は HIV(エイズ)の臨時検査を行います。

- 検査は全て無料・匿名です。
- 検査結果は一週間後に直接ご本人にお知らせします。電話・郵送ではお知らせしません。
- 匿名検査のため証明書は発行できません。
- 検査の詳細につきましては、各会場（実施機関）へお問い合わせください。
- 予約が必要な会場は、電話で必ず予約・確認のうえお越しください。（定員を設けている会場もあります。）
- 予約が不要な会場は、当日受付時間内に直接会場へお越しください。
- お問い合わせ・ご予約は次の時間をお願いします。月～金 8：45～12：00、13：00～17：00

検査日/結果日	受付時間	会場	検査項目	予約	最寄駅	予約・問い合わせ電話番号
12月1日(木) /12月8日(木)	18:00～19:30 /18:00～19:30	横浜AIDS市民活動センター	HIV・梅毒・B型肝炎	不要	JR線/市営地下鉄ブルーライン 関内駅	045-671-2729 (横浜市健康福祉局健康安全課)
12月6日(火) /12月13日(火)	10:00～14:00 /10:30～14:00	金沢福祉保健センター	HIV・梅毒・B型肝炎	不要	京急線 金沢文庫駅 京急線・シーサイドライン 金沢八景駅	045-788-7840
12月6日(火) /12月13日(火)	14:00～14:30 /15:00～15:30	鶴見福祉保健センター	HIV・梅毒・B型肝炎	要	JR線 鶴見駅 京急線 京急鶴見駅	045-510-1832
12月7日(水) /12月14日(水)	9:30～10:00 /9:00～9:30	神奈川福祉保健センター	HIV・梅毒・B型肝炎	要	JR線 東神奈川駅 東横線 反町駅 京急線 仲木戸駅	045-411-7138
12月13日(火) /12月20日(火)	14:00～14:30 /15:00～15:30	鶴見福祉保健センター	HIV・梅毒・B型肝炎	要	JR線 鶴見駅 京急線 京急鶴見駅	045-510-1832
12月14日(水) /12月21日(水)	9:30～10:00 /9:00～9:30	神奈川福祉保健センター	HIV・梅毒・B型肝炎	要	JR線 東神奈川駅 東横線 反町駅 京急線 仲木戸駅	045-411-7138
12月19日(月) /12月26日(月)	10:00～10:30 /10:40～11:10	磯子福祉保健センター	HIV・梅毒・B型肝炎	要	JR線 磯子駅	045-750-2445
12月20日(火) /12月27日(火)	14:00～14:30 /15:00～15:30	鶴見福祉保健センター	HIV・梅毒・B型肝炎	要	JR線 鶴見駅 京急線 京急鶴見駅	045-510-1832
12月21日(水) /12月28日(水)	9:30～10:00 /9:00～9:30	神奈川福祉保健センター	HIV・梅毒・B型肝炎	要	JR線 東神奈川駅 東横線 反町駅 京急線 仲木戸駅	045-411-7138
2017年 1月19日(木) /1月26日(木)	18:00～19:30 /18:00～19:30	横浜AIDS市民活動センター	HIV・梅毒・B型肝炎	不要	JR線/市営地下鉄ブルーライン 関内駅	045-671-2729 (横浜市健康福祉局健康安全課)

※2016年11月29日(火)、2017年1月17日(火)の横浜市夜間検査(横浜 AIDS 市民活動センター会場)は臨時検査実施の関係でお休みとなります。ご注意ください。

◆平成 28 年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマ

知っていても、分かっていても、 AIDS IS NOT OVER

“HIV/エイズはまだ終わっていない。知っていても、分かっていても、具体的な行動が伴わなければ、効果的な HIV 感染予防にはつながらない。だからこそ、それぞれの立場から「予防、検査、治療、支援、理解」という具体的な行動をとることが求められる。そのためには、一人ひとりが HIV・エイズの正しい知識を得て、5つの行動を実施していくことが重要である。”(趣旨より抜粋)

詳細はエイズ予防情報ネットへ→<http://api-net.jfap.or.jp>

～12月1日の世界エイズデー、それぞれができることを実行していきましょう～

◆休館のお知らせ

臨時休館： 11月26日(土) 世界エイズデー in Yokohama 2016 開催のため

12月1日(木)・2017年1月19日(木) 15時以降閉館、臨時検査のため

12月8日(木)・2017年1月26日(木) 17時以降閉館、臨時検査のため

冬季休館： 12月28日(水)～2017年1月4日(水)

※1月3日(火)の横浜市夜間検査も休みとなります。

HIV・エイズ、性感染症の正しい知識・最新情報をわかりやすく解説!

おーぷん

URL <http://www.yaic.gr.jp/>

発行:横浜 AIDS 市民活動センター
公益財団法人横浜YMCAが横浜市から事業を受託しています。

〒231-0015 横浜市中区尾上町3丁目39番
地尾上町ビル 9F / TEL:045-650-5421
FAX:045-650-5422 / E-mail: info@yaic.gr.jp
平日:13:00～20:00 / 土・祝:10:00～17:00
休館:日/火
監修:横浜市健康福祉局健康安全課

特集 SDGsとHIV・エイズ

～世界のすべての人に健康を～

世界エイズデー in Yokohama 2016

エイズは終わっていない! ともに理解を深めよう!



♡ 年に一度の街頭キャンペーン ご参加お待ちしております!

日時: 2016年11月26日(土) 11時～16時30分

会場: 新都市プラザ(横浜駅東口 横浜そごう前地下広場)

主催: 横浜 AIDS 市民活動センター

協力: 公益財団法人横浜 YMCA、一般社団法人神奈川県臨床検査技師会 STI 予防啓発委員会、認定 NPO 法人 AIDS ネットワーク横浜、認定 NPO 法人 SHIP、アジアの女性と子どもネットワーク

♡♡♡ スケジュール ♡♡♡

11:00 スタート

レッドリボンづくりのワークショップ、活動展示、アンケートなど様々なプログラムが開催されます!

12:00～ HIV・エイズクイズラリー

14:30～ レッドリボン&バルーン配布

16:30 終了



コムちゃんも登場するよ!



★予告★

横浜 AIDS 市民活動センターは「よこはま国際フォーラム 2017」に参加します!

性感染症に関する基礎講座を開催する予定です。日時などが確定次第、センターのホームページでご案内します。(12月頃の予定)皆様のご参加をお待ちしております。

センターHP: <http://www.yaic.gr.jp/>

よこはま国際フォーラム HP:

<http://yokohama-c-forum.org/wpforum/>



↑前回(2016年2月)の様子

知っておきたい! SDGs
~世界を変えるための17の目標~

特集 SDGs と HIV・エイズ
~世界のすべての人に健康を~

Pick Up! 目標3!
~すべての人に健康と福祉を~

SDGs

Sustainable Development Goals

持続可能な 開発 目標



17つの目標 興味のある目標はあるかな!?

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 目標 1 貧困をなくそう | 目標 10 人や国の不平等をなくそう |
| 目標 2 飢餓をゼロに | 目標 11 住み続けられるまちづくりを |
| 目標 3 すべての人に健康と福祉を | 目標 12 つくる責任 使う責任 |
| 目標 4 質の高い教育をみんなに | 目標 13 気候変動に具体的な対策を |
| 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう | 目標 14 海の豊かさを守ろう |
| 目標 6 安全な水とトイレを世界中に | 目標 15 陸の豊かさを守ろう |
| 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに | 目標 16 平和と公正をすべての人に |
| 目標 8 働きがいも 経済成長も | 目標 17 パートナースhipで目標を達成しよう |
| 目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | |

★持続可能な開発目標
未来の人々や地球のために、今の資源や環境を大切にしたり、世界で起こっている問題に向き合ったりする取り組みのことだよ!



目標3の意味

~何歳であっても、健康で、安心して満足に暮らせるようにする~

⇒目標3を達成するために、世界が取り組むと約束したことは!?

- ◆出産時に亡くなってしまおう母親の数を減らす
- ◆赤ちゃんや5歳未満の子どもが、防ぐことのできる理由で亡くならないようにする
- ◆すべての人が、質の高い医療を受け、薬やワクチンを得られるようにする
- ◆HIV・エイズなどの感染症や、肝炎、水によって感染する病気などの流行を終わらせる



←『私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標」』(日本語版制作セブ・ザ・チルドレン・ジャパン、2015年発行)から一部抜粋!

◆こんなに違う…、HIV・エイズ治療における世界の格差◆

世界でHIVと共に生きる子ども(0歳~14歳)は180万人、2015年に新たにHIV感染した子どもは15万人、エイズに関連する病気で死亡した子どもは11万人でした。世界の努力により新規感染数や死亡数は減少傾向にありますが、依然として深刻な状況です。子どもへの治療環境の格差も世界では大きな課題となっています。

子どものための治療環境、世界全体では?

●HIVに感染している(以後、HIV陽性と表記)0歳~14歳の子どもの49%はHIV治療を受けていますが、残りの51%は治療を受けていません。

子どもや母親のための治療環境、地域別では? (一例を紹介)

●西欧・中欧・北アメリカのHIV陽性の子どもの95%が治療を受けているのに対し、西部及び中央アフリカや中東・北アフリカのHIV陽性の子どもの80%は治療を受けていません。

●西欧・中欧・北アメリカのHIV母子感染を防ぐ治療普及率は92%に対し、中東・北アフリカの普及率はたったの12%です。

⇒母子の健康を守る治療への取り組みは、国や地域によって大きな格差がある!

SDGsの目標3を達成するために、世界全体が力をあわせて、これらの課題に取り組む必要がありますね。

(参照:エイズ予防情報ネット「ファクトシート2016」、UNAIDS「Children and HIV factsheet2016」)

★解説:HIVの母子感染★

HIV陽性の母親に何も治療をしなかった場合、母から子へのHIV感染確率は約30%とされています。ただし、妊娠・出産・授乳の際に医療機関で適切な治療を受けていれば、その可能性を5%以下(日本では1%以下)に抑えられます。生まれてくる新たな命を守るために、治療環境を良くしていくことは、とても重要なことなのです。

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで盛り上がった、ブラジルから来日中!
キクチ イレネ サチコ
KIKUCHI Irene Satikoさんに聞きました!

キクチさんはサンパウロ大学の先生です。現在、JICA研修員として医用材料と再生医療をテーマに日本で研修を受けています。



笑顔がとっても素敵なキクチさん→日系ブラジル人で、日本語も堪能でした!

◆HIV・エイズへの取り組み in ブラジル よこはま国際フェスタ2016(10/8-10、グランモール公園)でインタビュー◆

Q1: ブラジルの人々は、HIV・エイズの予防について日ごろから話しあうことはありますか?

キクチさん: ブラジルでは、全ての患者がHIV・エイズの治療を無料で受けられるように政府が全面的にサポートしています。だから、HIV感染が広がらないように、人々は日ごろからHIV・エイズについてよく話しあいます。

Q2: ブラジルでは、10代や20代など若い世代のHIV感染が増えていますが、その世代にHIV予防について伝えるために、どのような活動が行われていますか?

キクチさん: 学校でも習いますが、テレビやラジオなどのメディアでHIV予防を呼びかけることが多いです。特に、世界的に有名なリオのカーニバルの際には、たくさんの方が集まり、性的に活発になりやすいので、厚生労働省が大々的に予防啓発キャンペーンをしています。ブラジルでは、芸能人やスポーツ選手など有名な人がキャンペーンに参加することが多いです。

Q3: 最後に、ブラジルが国を挙げて大切にしている取り組みを教えてください。

キクチさん: 母子感染を防ぐために、HIVに感染している母親の出産・産後を手厚くサポートしています。未来を担う子どもたちを守りたいからです。みんなが元気に暮らしていけるように、これからも取り組んでいく必要があると思います。

JICA(ジャICA)研修員とは?

発展途上国の国づくりを担う人材を育成するために、途上国から日本に引き研修を行っています。横浜にも世界各国からたくさんの研修員がやってきます。研修員は地域交流も行いながら、日本と海外の人々の架け橋となっています。(横浜YMCAが、JICA横浜の地域交流事業を担当)



←キクチさんもよこはま国際フェスタでブラジル紹介。参加者と楽しく交流!